

7 野菜①

種類	作型・品種	目標収量 (kg/10a)	施肥時期・成分施肥量 (成分kg/10a)				施肥上の留意点
			施用時期	窒素	リン酸	加里	
きゅうり	露地夏秋栽培	90,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.3 24.0 16.0 40.3	0.6 28.0 10.0 38.6	0.3 18.0 14.0 32.3	基肥(緩効性)を60%とし、そのうち3分の2を全面に施用し、3分の1をベッドに施す。追肥は3~4回に分けて行う。
トマト	雨よけ夏秋栽培	10,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.5 15.0 17.0 32.5	1.0 29.0 10.6 40.6	0.5 15.0 14.9 30.4	堆肥や苦土石灰等の土壌改良資材を施し(pH5.8~6.5)、基肥はできるだけ緩効性肥料を用い、施用は定植10日前までには終わるようにする。追肥時期の目安として、第1果房の果実がピンポン玉大になった頃に行い、2回目は第3果房の果実が肥大し始めた頃に行う。
すいか(大玉種)	露地トンネル栽培 (つる引き栽培)	5,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 8.0 2.0 10.1	0.2 15.0 1.3 16.5	0.1 8.0 1.8 9.9	定植10~15日前に土壌改良資材を全面散布し耕うん後、うね幅3mの所に基肥を2m幅に散布して全層施肥を行う。追肥は、着果後に子房からつる先側の草勢の強弱や、地力を勘案し量を決め施す。
メロン	露地トンネル栽培	2,800	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 9.0 3.0 12.1	0.2 25.3 1.9 27.4	0.1 9.0 2.6 11.7	定植10日前に完熟した堆肥と基肥を施用し、土と良く混和して、うねをつくる。
いちご	ハウス早熟栽培	2,500	基肥 追肥 合計	23.0 5.0 28.0	35.6 3.1 38.7	23.0 4.4 27.4	堆肥は定植の1か月前、基肥は定植の10~15日まで施用し、耕起しておく。
なす	露地夏秋栽培	4,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.3 25.0 13.0 38.3	0.6 34.5 8.1 43.2	0.3 19.2 11.4 30.9	深根性なので深耕し有機物を十分施すとともに、pH6~6.5になるように苦土石灰等を施す。健全な株は花の咲いている先に葉が3~5枚くらい展開していると長花柱花(めしべがおしべよりも上に出ている)が多いが、草勢が衰えると短花柱花が多くなるので、追肥等は早めに行う。
かぼちゃ	露地栽培	3,800	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 15.0 3.0 18.1	0.2 21.5 1.9 23.6	0.1 11.3 2.6 14.0	定植後、特に草姿が劣る場合には追肥する。5月末から6月上旬にトンネル除去後、追肥、中耕して敷きわらをする。

7 野菜②

種類	作型・品種	目標収量 (kg/10a)	施肥時期・成分施肥量 (成分kg/10a)				施肥上の留意点
			施用時期	窒素	リン酸	加里	
スイートコーン		1,500	基肥 追肥 合計	19.2 6.4 25.6	13.6 4.0 17.6	14.4 5.6 20.0	は種の10日前頃までに堆肥、基肥を全面散布し、20cm深に耕起する。緩効性肥料を主体としたマルチ内全量基肥体系を基本とする。
ピーマン	雨よけ栽培	7,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.4 15.0 19.0 34.4	0.8 21.5 11.9 34.2	0.4 11.3 16.6 28.3	本畑pHは6.0～6.5に調整し、完熟堆肥を施用して耕起する。
えだまめ		650 さや重	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 4.0 2.0 6.1	0.2 12.0 6.0 18.2	0.1 16.0 8.0 24.1	排水の良い場所を選び、土壌改良資材、有機物を深耕混和する。土壌酸度の適応幅は広いが、pH 6.5が最適であるため、早めに苦土石灰などで調整しておく。窒素過多では茎葉が過繁茂となり、収穫減となるので注意する。追肥は草勢が弱い場合、土寄せ時、開花期に行う。
さやいんげん	つる性種露地栽培 わい性種ハウス栽培	つる性種 2,000 わい性種 700	基肥 追肥 合計 基肥 追肥 合計	10.0 10.0 20.0 7.0 3.0 10.0	22.9 6.3 29.2 21.3 1.9 23.2	7.7 8.8 16.5 5.4 2.6 8.0	追肥は、つる性種では開花初めの頃から2週間間隔で数回行う。わい性種では、播種後30日頃とその2週間後頃の2回行う。
キャベツ		4,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 15.0 9.0 24.1	0.1 22.1 5.6 27.8	0.1 11.5 7.9 19.5	基肥は全面全層とし、追肥は植え付け後15日頃と結球始め頃に速効性肥料をうね間に施用する。
はくさい		8,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 17.0 8.0 25.1	0.1 24.1 5.0 29.2	0.1 15.8 7.0 22.9	基肥は全層施用、追肥は、は種後20日頃施用し、除草を兼ねて中耕し土に混ぜ合わせる。その後20日目に第2回目を行う。
ほうれんそう	春夏まき栽培 秋冬まき栽培	2,000 2,200	基肥 合計	10.0 10.0	27.3 27.3	8.8 8.8	有機物を多用し、pHは6.5を目標に土づくりを行う。初期生育促進がポイントになるため、基肥中心の施肥とし、播種10日前までに混和しておく。
ねぎ	露地栽培	3,500	育苗 基肥 追肥 合計	0.2 10.0 15.0 25.2	0.2 24.0 9.4 33.6	0.2 10.0 13.1 23.3	追肥は、うね間に施用し土寄せする(3～4回)。
たまねぎ	秋定植	5,000	育苗 基肥 追肥 合計	0.6 16.0 12.8 29.4	0.6 30.0 8.0 38.6	0.6 16.0 11.2 27.8	本畑の追肥は、第1回目を定植後20日頃に中耕・除草を兼ねて行い、2・3回目は融雪後施用する。

7 野菜③

種類	作型・品種	目標収量 (kg/10a)	施肥時期・成分施肥量 (成分kg/10a)				施肥上の留意点
			施用時期	窒素	リン酸	加里	
ブロッコリー		1,200	育苗 基肥 追肥 合計	0.1 15.0 10.0 25.1	0.1 8.1 6.3 14.5	0.1 11.5 8.8 20.4	ホウ素、モリブデン 欠乏が出やすいので 完熟堆肥の施用、土 壌酸度の適正化 (pH5.5~6.5)につとめ る。ステイックセニョ ール長期穫りの場合 には、緩効性肥料を用 いて1.5倍程度の施肥 量とする。定植後20 日頃に追肥を行い、 中耕・土寄せをする。
にら		3,800	(本畑:収穫年) 追肥(萌芽前) 追肥 合計	14.0 18.0 32.0	14.0 11.3 25.3	10.5 15.8 26.3	基肥は定植2週間前 までに施すが、本畑 においてはおよそ半 量を緩効性肥料とす る。追肥は刈り取り後 生育状況に応じて行 うが、1回の施肥量は 窒素成分で3~5kg条 間に施す(2~3回)。
アスパラガス	露地栽培	500	(2年目以降) 追肥(萌芽前) 追肥 合計	20.0 14.0 34.0	31.0 8.8 39.8	15.0 12.3 27.3	窒素分としては、初 年目の基肥は緩効性 肥料を主体とし、追肥 は速効性肥料で2回 に分施する。2年目以 降は、春に速効性肥 料で30%、収穫打ち 切り時に50%と秋に 20%を緩効性と速効 性肥料を併用して施 用する。リン酸資材も 十分量施用する。
せいさい	露地秋まき栽培	6,000	基肥 追肥 合計	20.0 5.0 25.0	11.0 3.0 14.0	16.0 4.0 20.0	肥切れは花芽分化 を早め収量減少につ ながるので、肥沃畑を 選び、肥効の続かない 畑では追肥する。 追肥は第2回目の間 引き後に生育状況を みて実施する。
しゅんぎく		2,000	基肥 追肥 合計	12.0 3.0 15.0	13.5 1.9 15.4	9.2 2.6 11.8	堆肥施用効果が大 きい。酸性に弱い のでpH5.5以下であ れば、石灰資材で調 整する。化成肥料を 全面散布しよく混和 する。発芽揃いまで 時間がかかるので、 乾燥しないように適 宜かん水する。
こまつな	春夏まき栽培 秋冬まき栽培	1,300	基肥 合計	12.0 12.0	20.5 20.5	9.2 9.2	生育期間が短いた め基肥主体とする。 生育が悪いか葉色が 薄い場合は追肥を行 う。

7 野菜④

種類	作型・品種	目標収量 (kg/10a)	施肥時期・成分施肥量 (成分kg/10a)				施肥上の留意点
			施用時期	窒素	リン酸	加里	
セルリー	春どりハウス栽培 秋どりハウス栽培	6,500	育苗	0.6	0.6	0.6	肉質、食味向上のためには、肥沃で保水力に富むほ場が望ましい。肥効調節型肥料を用いて全量基肥とする。
			基肥	30.0	37.0	30.0	
合計	30.6	37.6	30.6				
だいこん	露地栽培	5,000	基肥	15.0	22.7	13.9	基肥は窒素成分でa当たり1.5kg程度をめぐりにし全層施肥とする。土壌酸度はpH5.5～6.8が適正である。追肥は窒素成分でa当たり7kg程度を目途に2～3回に分けて施すが、最終追肥はは種後25日までに終わらせるようにする。
			追肥	5.0	3.1	4.4	
合計	20.0	25.8	18.3				
かぶ		3,000	基肥	8.0	11.3	6.2	堆肥は前作に施用しておく。追肥は、最終間引き時及びは種後35日頃に条間又は株間に行う。
			追肥	3.0	1.6	2.3	
合計	11.0	12.9	8.5				
にんじん		3,000	基肥	16.0	24.0	16.0	肥沃な土壌を好み、乾燥すると生育不良となることから、有機物を多用して膨軟性と保水性を高める。追肥1回目は、は種後40日頃、2回目は、は種後55～60日頃に行う。
			追肥	7.0	4.4	6.1	
合計	23.0	28.4	22.1				
さといも		2,000 ～2,500	育苗	0.1	0.1	0.1	基肥は植え付け2週間前頃に散布し耕起する。施肥は全量基肥とし有機質肥料や緩効性肥料をマルチ内に施用する。
			基肥	15.0	15.0	15.0	
合計	15.1	15.1	15.1				

8 飼料作物

種類	作型・品種	目標収量 (kg/10a)	施肥時期・成分施肥量 (成分kg/10a)				施肥上の留意点
			施用時期	窒素	リン酸	加里	
飼料用とうもろこし		8,000 ～9,000	基肥	20.0	20.0	18.0	
			合計	20.0	20.0	18.0	